

# 山手

大正15年創業。農家さんと直結、厳選米専門店

**森田屋 米店**

南荻窪1-43-17  
☎03-3333-9512

都内の天気

きょう	あす
都区部	☂ ☂
府中	☂ ☂
八王子	☂ ☂

きょうの予想 (区内)

降水確率 朝10% 昼20% 晩70%  
気温 最高18度 最低9度  
北の風

社会部東京ニュースデスク  
〒100-8505 内幸町2-1-4  
電話 03-6910-2260  
FAX 03-3595-6917  
mail:shakai@tokyo-np.co.jp

したまち支局  
電話 03-3844-2215  
FAX 03-5827-7470

立川支局  
電話 042-524-0061  
FAX 042-524-0063  
武蔵野 0422-43-2134  
八王子 042-656-2313  
町田 042-727-5451

## トランスジェンダーの人権訴え

### 都内で初「追悼の日」行進

トランスジェンダーの尊厳と権利を考える「トランスジェンダー追悼の日」の二十日、新宿区内の道路を当事者ら約四百人(主催者発表)が、水色、ピンク、白の三色を使った旗やプラカードを掲げるなどして歩き、自らの存在や人権をアピールした。各国で行われている「トランスマーチ」で、東京では初開催。

トランスジェンダーは、「を自認する人のことをい出生時の性別とは異なる性」。

(奥野斐)

追悼の日は一九九八年十一月、米国で当事者が殺害

された事件にちなみ、各国で追悼や尊厳を考える催しなどを行う日として定着してきた。

主催者によると、昨年十月から今年九月までで世界で少なくとも二百七十五人のトランスジェンダーが殺害されたという。

国内では昨今、会員制交流サイト(SNS)などで差別的な言動が広がり、

排除されたり、身の危険を感じたりしている人もいる。

二十日、参加者は新宿中央公園を出発し、新宿公園までの約一・七キロを行進。実行委員会の浅沼智也共同代表(三)は「トランスジェンダーとして生きること、日本においてもまだまだ理解されず、日常的に困りごとや問題がある。これを機に知ってほしい」と話した。

ドローンで料理配達  
きれいに届いて笑顔

竹芝で実証実験

JR東日本とKDDIなどは二十日、港区の商業施設「ウォータースズ」で小型無人機ドローンを使って料理を配達する実証実験をした。同施設の飲食店から近くの広場や公園に料理を温かいまま届けることが可能かなどを検証した。実験では、ウォータースズ



トランスジェンダーの人権などを訴えて歩く参加者たち(新宿区)

## 全国から230点 鮮やか切り絵 都美術館で24日まで展示



多彩な切り絵作品を来場者たち(台東区)の都美術館で

全国から集まった切り絵作品を紹介する「きりえ美術展」が、都美術館(台東区)

再開発について意見交換する

住民ら(千代田区)外神田で



再開発について意見交換する

住民ら(千代田区)外神田で

で、ビル建設について「空気がなくなり、この街で形成されてきた空気はいったんゼロになる」と強調。新型コロナウイルスの影響で都心のビル需要が下がっていることに触れ「がら空きのビルが地域にそびえ立つことになれば最悪」と懸念した。

対象地域には公共施設の区清掃事務所や葬祭場もある。集めたごみの積み替えなどは超高層ビルの地下で行う構想で、参加した女性は「万一の事故を考えれば地下は危険」と反対の考え

(井上靖史)

区)で開かれている。鮮やかな色彩で見せたり、電飾を使うなど、技巧を凝らした二百三十点が並び、二十四日まで。

日本きりえ協会(同区)が毎年主催し、今回で四十四回。日本各地の作家百五十五人が出品した。

富士山や岐阜県の白川郷の雪景色など風景をモチーフにしたものほか、アクリル板に挟んだチョウや羽の絵を重ねて立体的に見せる作品も。また、月を背景にした鳥の絵を後ろから電飾で照らしたり、作品の一部を動かす仕掛けを施したりと、アイデアが光る。

協会担当者は「同じ切り絵のジャンルでも作品は多様化してきている。一つ一つの作品を楽しんでほしい」と話す。一般六百元、高校生・大学生三百円、中学生以下と障害のある人は無料。

(太田理英子)

## 一葉を成長させた町

### 東京舞台さんぽ

樋口一葉の名作「たけくらべ」は、一葉が吉原遊郭に隣接する下谷龍泉寺町(現在の台東区龍泉)に住んでいた頃の体験に着想を得た作品だ。そこでの生活が小説家としての一葉を成長させ、多くの作品に影響を与えた。一葉はどんな経験をしたのか、思いを巡ら



樋口一葉が住んでいた当時の町並みを再現した模型が展示されている。区立一葉記念館、いずれも台東区で。吉原遊郭の名所の一つだった見返り柳



東京メトロ日比谷線三輪駅から徒歩約十分の場所に、一葉の旧居跡を示す石碑が立つ。長兄や父を亡くし、一家のあるじとなった一葉は一八九三年、生活苦から抜け出すため、この地に母と妹の三人で、生活雑貨や駄菓子屋を扱う店を開いた。

一葉は翌年、小説「たけくらべ」を完成させた。同館に

一葉の旧居跡を示す石碑が立つ。長兄や父を亡くし、一家のあるじとなった一葉は一八九三年、生活苦から抜け出すため、この地に母と妹の三人で、生活雑貨や駄菓子屋を扱う店を開いた。

一葉は翌年、小説「たけくらべ」を完成させた。同館に

一葉の旧居跡を示す石碑が立つ。長兄や父を亡くし、一家のあるじとなった一葉は一八九三年、生活苦から抜け出すため、この地に母と妹の三人で、生活雑貨や駄菓子屋を扱う店を開いた。

## 台東区龍泉



お断り。新設の施設のため、更なる公開前に確認してください。